

## 理事長ごあいさつ

学校法人上智学院理事長     アガスティン サリ

上智大学四谷キャンパスの外構工事は計画通りに進み、バリアフリーやサステナビリティ等のコンセプトに基づくキャンパス整備が行われました。学生教職員も新たな環境を楽しみながら教育や研究に心地よく励んでいるようです。その中で平素より上智大学の教育・研究そして社会への貢献活動にご理解とご支援をいただいているご父母・保証人の皆様に心より感謝申し上げます。地域懇談会では、直接お目にかかり、教育方針をお話しさせていただくとともに、学業・就職等の状況についてご説明しております。

上智大学の地域懇談会は、1967年度に九州地区と山口県のご家族を対象に「父兄懇談会」として始まりました。上智大学の保証人とのコミュニケーションの場は現在「地域懇談会」の形となり、全国約 10 箇所を会場として続けてまいりました。その目的はご父母・保証人様とのコミュニケーションを図るとともに、ご父母・保証人の皆様からのご意見を直接伺って、将来に資することです。上智大学はキリスト教ヒューマニズムに基づくカトリック教育機関として全人的教育とよりよい社会の創設のための研究を行っています。最近、「共に歩む」(ギリシャ語のシノドス)と「共同識別」(コミュニアル・ディザインメント)という方法を用いて、「互いに聞きながら」、あいまいな社会状況の中で何が良いのか、どの道を選ぶのか、どの方向に向かうのかを共に選択していくプロセスを大事にしています。

ご父母・保証人の皆様におかれましては、ご子女の勉学や生活、そして将来についての状況を確認すると同時に、大学の現状と動きに関心を持っていただき、ご子女の成長につながる助言と上智大学の向上のためご協力を賜りますよう切望しております。どうぞ積極的にご参加いただき、皆様と交流ができればと楽しみにしています。

## 学長ごあいさつ

上智大学長 曄道 佳明

日頃より、本学の教育、研究、社会貢献活動に格別のご理解、ご協力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

新年度が始まり、キャンパスが新たな息吹のもとで活気付く中、教職員も気持ちを新たに、今の社会における上智大学の在りようを考え、私たち自身が納得する「質」を追求しながら、新たな挑戦に取り組んでおります。

世界に立ちほだかる課題の山は、簡単には切り崩せない、容易には頂上を窺えない状況にあります。しかしながら、SDGsに代表される世界の動きは、本学が建学以来揺るぎなく取り組んできた対象であり、これらの課題解決のために、産業界、国際機関、教育界、学術研究などの各界で卒業生が牽引役となっていることは頼もしい限りです。多様性のあるキャンパスには様々な問題意識を持った学生たちが集まります。多様な挑戦を後押しし、彼らが多様な進路へ巣立って行く、上智大学のキャンパスはそのような環境を目指し続けたいと考えます。そして学生の皆さんには、挑戦、経験を通じて、自分自身に様々な、そして大きな可能性があることを実感してもらいたいと思います。生涯にわたって学び続ける基盤は、学術的専門性のみならず、学生時代における挑戦的な経験によって、より強固なものとなることを確信いたします。

地域懇談会では、大学の今に触れていただくと共に、教職員との懇談の中で、皆様のお考えも是非お聞かせください。皆様にとりまして有意義な一日となりますことを心より祈念申し上げます。